

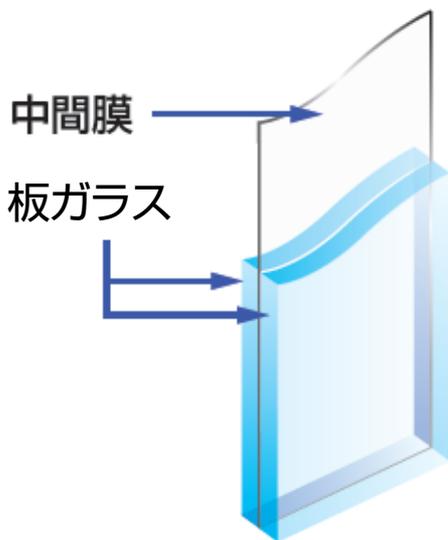


防犯ガラス

防犯ガラスとは、2枚の板ガラスの間に約0.76ミリ以上の厚さの柔軟で強靱な特殊中間膜をはさみ込み、熱と圧力を加えて接着したものです。左下図のような構造になっており、はさみ込んだ中間膜が厚くなるほど、その防犯効果も高まります。防犯ガラスを使った複層ガラスは、主に室内側のガラスに防犯ガラスを使用し、間にはさまれた乾燥空気層が断熱材となり外気温を伝わりにくくしたものです。

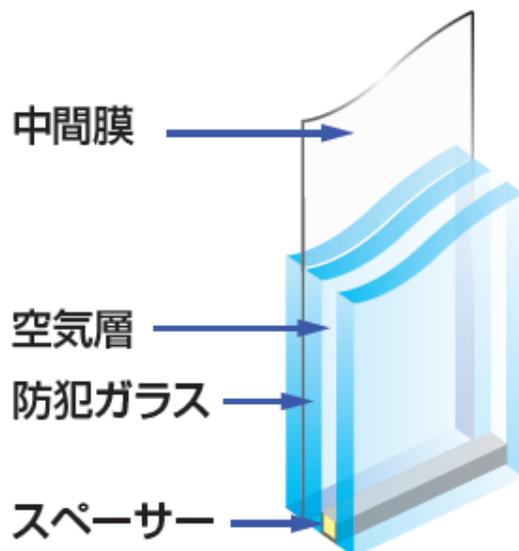
防犯合わせガラス

住宅・建築物に使われている一般的な防犯ガラス



防犯合わせ複層ガラス

断熱性能にすぐれ、結露防止効果のある複層ガラス



平成15年春より防犯ガラスとしての基準をみたしているものには、左記のマークが表示されています。



平成17年8月より「防犯性能の高い建物部品」のシンボルマーク(左記)を併記することになりました。



※本文中の「防犯ガラス」という表現は、「ガラスの防犯性能に関する板硝子協会基準」の防犯ガラスの定義に基づいており、泥棒の侵入を完全に防止することを保証するものではありません。

※より防犯効果を高めるために、補助錠の設置やセキュリティシステムの併用をおすすめします。

【抵抗時間】

侵入者がガラスの打ち破り行為等を開始してから建物内部に侵入が可能になるまでの時間を「抵抗時間」と呼び、各商品ごとに定められた試験を行い、うち打ち破りについて7回、こじ破り及び焼き破りについて5分以上の抵抗性能を示した商品を「防犯性能の高い建物部品」(CP製品)として目録公表されています。

※ご注意

CP製品は、客観的に評価された防犯性能を有する製品ですが、侵入を完全に防ぐものではありません。従って、侵入犯罪による物品の損害も同様に損害賠償の対象とはなりません。